

O

TOKYO NIKIKAI | 東京二期会

PERA

vol. **341**

Mar. 2025

[オペラ]

～オペラの楽しみをあなたに～



*Nikikai
to the Future*

72nd

Established in 1952



東京バレエ団 × 東京二期会

舞台人が観客と共有する高揚感

連載第3回 バレエダンサー 大塚卓・ソプラノ 清野友香莉

東京バレエ団の期待の若手ダンサーである大塚卓さんと、バレエファンでもあるソプラノ・清野友香莉が初対面。知りたかったバレエのこと、オペラのことをざっくばらんに語り合いました。



清野友香莉 Yukari Kiyono
国立音楽大学大学院修了後、渡境。新国立劇場オペラ研修所修了。文化庁新進芸術家海外派遣研修にて渡独。東京二期会では「ナクス島のアリアドネ」ツェルビネッタ、「天国と地獄」ヴィーナス等を演じる。本年は2月「カルメン」ラスキータの後、「イオランタ/くるみ割り人形」プリグッテ、2017年に好評を博した「こうもり」アデーレでの再登場も予定される。二期会会員

大塚卓 Suguru Otsuka
5歳よりバレエを始める。2015年、奨学金を得てハンブルク・バレエ学校に留学。卒業後、クイーンズランド・バレエ団を経て、20年に東京バレエ団に入団。同団で「くるみ割り人形」のくるみ割り王子、クランコ版「ロミオとジュリエット」のロミオ、「眠れる森の美女」の青い鳥、金森種「かくや姫」の帝等の作品の主要な役で出演する。24年よりファーストソリストとして活躍。

大塚 清野さんは「カルメン」にご出演とのこと、観たかったです。オペラとバレエは公演時期が近いことも多く、なかなか劇場に足を運ぶことができないのですが、カルメンは両分野で演じられているし、有名な曲ばかりで構成されているので、オペラにうとい僕でも楽しめそうです。

清野 大塚さんも2月はベジヤールの「くるみ割り人形」、そして次は「眠れる森の美女」が控えていて、お忙しそうですね。人気ぶりがうかがえます。「くるみ割り人形」はバレエの中でも特に好きな作品です。でも、ベジヤール版は古典作品とはかなり違うようですね？

大塚 まったく違いますね。くるみ割り人形が出てきません(笑)。僕が演じたM:は、古典版というドロッセルマイヤーで、クララ(東京バレエ団版ではマーシヤ)にあたる少年ピムの案内人のような役です。ピムは世界的な振付師モリス・ベジヤール自身で、M:はときには父親になり、ときには稀代の振付師マリウス・プティパになります。

清野 古典版の王子様も踊っていらっしやると思いますが、現代的に解釈されたベジヤール版も踊るとなると混乱しませんか？

大塚 いえ、まったく別物なのでその点は大丈夫です。むしろ王子役を踊るときの方が緊張します。なにしろ、普段は王子じゃないので(笑)。素が出ないように、隅々にまで神経を配らなければなりません。

清野 金平糖の精と王子様のグラン・パ・ド・ドゥは踊りも音楽も最高潮に盛り上がるシーンですよ。私はチャイコフスキーが大好きなのですが、オペラでは音楽的に重めの役が多いんです。ですから、バレエの「くるみ割り人形」と融合したオペラ「イオランタ」への出演が決まり、とてもワクワクしています。

大塚 主人公の夢の世界が「くるみ割り人形」で表現されていると聞きました。ねずみの王様の戦いの場面とか入るのかな？

清野 あの場面、かっこよくて好きです。でも、挿入されるのはプロダクションの後半のようです。どんな舞台になるのか、私も楽しみです。

大塚 清野さんはどうしてオペラ歌手になろうと思ったのですか？

清野 私は小学生から音大付属の学校に通っていたのですが、中学生のときに見たミュージカル「ライオン・キング」の壮大な世界観に魅せられ、ピアノから声楽に専攻を変えたんです。大学でオペラに出会い、今に至ります。大塚さんはなぜダンサーに？

大塚 僕はバレエをやっていた姉と母の影響で始めました。地元(千葉県)では、バレエ男子という少し学校でいじられたりしましたが、踊るのが大好きだったので気になりませんでした。

清野 憧れのダンサーはいましたか？

大塚 踊りに熱中していて、実際の舞台を観る機会がなかなかなかったせいか、憧れの対象もいなかったんです。

清野 意外です！

大塚 最近では出演のない日にプロダクションを観る余裕ができたので、お客様の立場になって舞台を観るようにしています。

清野 一度でも生の公演を観れば、きっとやみつきになると思いますか？ 見せ場では緊張することもあります。お客様も緊張しているのがわかり、劇場全体に一体感が生まれます。ちょうどPKに挑むサッカー選手と観客みたいに。

大塚 わかります。誤解を恐れず言いますが、僕としては、まず、自分の極限を目指して踊っています。そうやって自分を追い込んだ末にたどり着くところにお客様が感動してくれるといいな、と。

清野 アスリートみたい！ 集団心理が働いて劇場全体が高揚感に包まれるあの感じ、多くの方に体験してもらいたいですよね。

東京バレエ団公演情報

【眠れる森の美女】

全3幕 プロローグ付き
東京文化会館 大ホール
2025年4月24日(木) 18:30
25日(金) 18:30*
26日(土) 12:30 / 18:30
27日(日) 14:00*
28日(月) 14:00
29日(火・祝) 13:00

*大塚卓さん出演日
(6月7日の大分公演にも出演予定)

構成・文：松野玲子 撮影：杉能信介 撮影協力：東京バレエ団

CONTENTS

二期会通信 | TOKYO NIKIKAI OPERA Mar.2025 vol.341

- P.2 【特別対談企画】
バレエとオペラ「舞台人が観客と共有する高揚感」
第3回 ◆大塚卓 × 清野友香莉 (ソプラノ)
- P.4 至高のマエストロ、上岡敏之の「さまよえるオランダ人」
- P.6 「さまよえるオランダ人」出演歌手の素顔
- P.8 振付師カイダノフスキー「イオランタ/くるみ割り人形」のコンテンツラリー
- P.10 「イオランタ/くるみ割り人形」が名古屋&大分で公演決定！
- P.12 東京二期会 新シーズンは期待の若手指揮者が続々登場
- P.14 TICKETING Information

ご支援いただいております

私ども東京二期会では日本のオペラ芸術振興を目的に、「二期会未来基金」を設置し、大村達彌様による「大村未来基金」、服部悦子様による「服部未来基金」、宗次徳様による「宗次未来基金」、他匿名1件のご支援をいただいております。この基金は、二期会オペラ研修所の運営、東京二期会での主催オペラ公演資金として広く活用されています。

公益財団法人東京二期会



ともに創る未来へ。-Challenge SEITOKU-

かけがえない学生時代、思いきり成長したい。
培った力を、誰かの幸せのために社会で役立てたい。
その意欲を、変化が加速する新時代に活躍する力へ。
自由で、多様で、限らない、学びの世界で学問しよう。
いまの自分を越える挑戦で、新しい価値を創る力を。

2021~2024 年実就職率
全国女子大学ランキング

4年連続
1位

97.4% (2024年3月卒業生)
※卒業生500人以上の女子大学実就職率
2024年度調査結果

自立するチカラをはくくむ女性総合大学。

聖徳大学
聖徳大学短期大学部

SEITOKU 〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 TEL.047-365-1111(大代表) <https://www.seitoku-u.ac.jp/>

～聖徳大学グループ～
聖徳大学大学院 聖徳大学教職大学院 聖徳大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学幼児教育専門学校 光英VERITAS高等学校
聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校 光英VERITAS中学校 聖徳大学附属取手聖徳女子中学校 聖徳大学附属小学校
聖徳大学三田幼稚園 聖徳大学八王子幼稚園 聖徳大学多摩幼稚園 聖徳大学附属幼稚園 聖徳大学附属第二幼稚園
聖徳大学附属成田幼稚園 聖徳大学附属浦安幼稚園 聖徳大学オープン・アカデミー (SOA)



オペラ『さまよえるオランダ人』を指揮する 上岡敏之の至高

新シーズンの最初を飾るワーグナー作曲
『さまよえるオランダ人』が、9月に上演されます。
指揮はドイツを拠点に活動し、長いキャリアと
圧倒的な個性を放つ上岡敏之さん。
帰国したマエストロに本作品への思いを
語っていただきました。



上岡敏之 Toshiyuki Kamioka
東京藝大、ハンブルク音大で研鑽を積む。ドイツ、キール市立劇場で劇場でのキャリアを開始。ヘッセン州立歌劇場音楽総監督、北西ドイツ・フィル首席指揮者、ザールランド州立歌劇場音楽総監督、ヴッパータール市立歌劇場総支配人、新日本フィル音楽監督、コペンハーゲン・フィル首席指揮者等を歴任。ザールブリュッケン音楽大学指揮科正教授も務める。©武藤 章

洗練と個性を引き出す魔術師

数々の名演で知られる上岡敏之さんと、映画監督で脚本家でもある演出家、深作健太さんとの初協働となる今回のプロダクション。奇しくも上岡さんのお父様も映画プロデューサーという巡り合わせです。「父が松竹に勤めていた関係で、子どもの頃は黒澤明監督などに会う機会に恵まれました。特に木下恵介監督の茅ヶ崎のお家には週末ともなるとお邪魔していました。父には撮影所にもよく連れていってもらい、演技をしているのにもかかわらず、この女優さん、なぜ泣いているんだろうと思ったものでした」と語る上岡さん。

よく見ましたけど、見るのとその道に進むのとは大違い(笑)。深作さんのお父様(深作欣二氏)が監督をされた『蒲田行進曲』も見ましたよ。オペラだけでなく、演劇など他の世界に精通している人の演出は楽しいですね。『ファンタジー』がある人は面白いです」と深作さんとの協働を楽しんでいるそうです。

天才舞踊家ピナ・バウシュとの ヴッパータール時代の思い出

他の世界といえば、ヴッパータール市立歌劇場では、ヴッパータール舞踊団芸術監督でダンス界のレジェンド、ピナ・バウシュとも交流があったのだとか。

「私達は愛煙家で、喫煙しながらよく話しました。私にはすごくよい方でしたが、ダンスには本当に厳しい指導者でした。ストラヴィンスキーの『春の祭典』で協働した時は、ダンスには彼女の指導と1ミミリ違っても厳しく指導するのに、私が前日と同じように振ると、そうではなくて思ったように振ってほしい、舞台が音楽に合わせるからと。彼女は一流のダンサー、振付師でありながら高い音楽性を備えていました」と語ります。

指揮はコミュニケーション言語。 オペラの音楽は舞台構成の一部

指揮者としてだけではなく、ピアニストとしても知られる上岡さん。「ピアノを弾いたおかげで色々な仕事をできたことは間違いないですね。今回タッグを組む読売日本交響楽団(以下、読響)とは、室内楽のプロジェクトでも一緒に一緒にしています」。

その読響については「人生の中で一番長い付き合いのオーケストラです。1998年からなので、四半世紀以上になりますね」と回想。

読響との共演で、今回オペラ指揮者として舞台に立つのは、実に2008年日生劇場『魔笛』以来だとか。多くの上岡ファン待望の舞台となりそうです。

指揮者、ピアニスト、作曲家といくつもの顔をもつ上岡さんですが、そこに意識の違いはあるのでしょうか？

「音楽をしている」というスタンスは全く同じですね。ただピアノの場合は、「練習」という、肉体を楽器に合わせる必要があるありますが、指揮の練習はほとんどしません。自分の指揮姿には全く興味がありませんし、収録された映像も見ません。指揮というのは、コミュニケーション言語なんです。ドイツ語でも英語でもどのスピーカーに対してもわかるように、オーケストラ全体に伝わるために身体を動かしている、その目

的のみです」

劇場でオペラを観ても「カラヤンでもショルティでもクライバーでも、指揮姿には興味がありませんでした。実は自分がピットで指揮していて観客から見られるのも苦手で笑います。

指揮に対しての明確な意図をもつ上岡さんですが、「オペラとシンフォニーは全くの別物」とも話します。「オペラでは音楽はその一部分で、歌手や俳優などたくさんの役目を担う人や演出などがクロスする世界。音楽へのスタンスは変わりませんが、舞台を構成するなかで音楽はその一部であるということに常に忘れないようにしています」。

久しぶりのオペラ指揮という上岡さんに、今回のワーグナー公演の抱負について聞くと「長い作品なので、リハーサルも含めまずは体力が大事ですね。特に読響は、アメリカのオーケストラのように音量も迫力もあるし、どの楽器にもソリスト級の奏者がたくさんいてとにかく素晴らしいので、そのポリューム感に負けないようにしないといけません」と話します。

芸術は一步先をリードする世界。 時代の先を見据えた舞台をぜひ！

協働する演出家については「やはり、最後は人柄ですね。わからないところがあれば

素直にわからないと正直に言える人。即席で台本を理解してわかった気になるのではなく、自分のなかで咀嚼して理解したものを表現する。そのためのリハーサルですし、何よりパートナーなので」と語ります。

これまでバレーも相当な数を指揮し、オペラやオペレッタでもその数150本は下らないという上岡さんの言葉には、含蓄があります。

大学卒業後はドイツでコレペイトル(オペラのリハーサルや本番でピアノを務め、歌手たちを指導する専門家)や、劇場の専属指揮者としてキャリアをスタートした上岡さんは、ドイツ各地を東奔西走し、指揮者やピアニストとして活躍、これまで休みなく全速力で駆け抜けてきました。頭角を現すとさまざまなオファーが次々に舞い込み、歌劇場の音楽監督、総支配人、音楽大学正教授など輝かしい功績を残してきたマエストロ。今回のワールドプレミア公演でお客様に見ていただきたいところを伺いました。

「ご覧の皆さんも自分の中で、作品を消化してほしいと思います。オペラも、昔のイメージを持って観てしまうと、現代の演出があまりにも飛躍が多く、中身が変わって驚いてしまうこともあります。けれど芸術の分野って時代の先端でなければいけないものでもあります。一步先の時代を見据えてご覧いただくといのではないのでしょうか」

「さまよえるオランダ人」あらすじ

18世紀のノルウェー。嵐の航海中、悪魔に呪われ、死ぬことができず海をさまようオランダ人船長。7年に一度だけ許される上陸の時、愛を誓う女性が現れれば救われるという。その幽霊船に出くわしたノルウェー貿易船の船長ターラントは、オランダ人の財宝に目がくらみ、娘ゼンタを彼に引き合わせることを約束する。

ゼンタはオランダ人と運命的な出会いを果たすが、すでにゼンタには恋人エリックが。エリックに責められるゼンタ。それを知りオランダ人は絶望し出航。ゼンタは彼を追って海に身を投げる……。

ワーグナー
「さまよえるオランダ人」
＜ワールドプレミア＞
日本語及び英語字幕付原語(ドイツ語)上演
指揮：上岡敏之 演出：深作健太
合唱：二期会合唱団
管弦楽：読売日本交響楽団
東京文化会館 大ホール
2025年9月11日(木) 18:00
13日(土) 14:00
14日(日) 14:00
15日(月・祝) 14:00

『さまよえるオランダ人』出演歌手の素顔

難解なイメージのあるワーグナーのオペラですが、『さまよえるオランダ人』は、ロマンチックなストーリーが特徴。ヒロインを演じる20代の中江万柚子と、「挑戦」だというベテランの斉木健詞に学生時代などを振り返ってもらいました。



オランダ人役を演じる

バス 斉木健詞

2025年9月13日(土)、15日(月・祝)出演

音大には思いがけないきっかけで進むことになりました。高校に入学して入ったバレーボール部は強豪として知られ、練習があまりにもきつすぎました。が、相当の理由がなければ辞められない雰囲気。そこで「音大へ行くために勉強をする」を切り札にしたんです。歌は小学生の頃から得意だったけれど、あのときの「音大に行く」は方便でした。でも、高校1年の秋から楽典やピアノの勉強することになりました。

小学生のときから歌で褒めてもらうこともよくありました。中学1年の最初の音楽の時間、音域テストがあって、まだボーイソプラノだった僕は、誰よりも広い音域が出せたんです。皆の前で歌うのって恥ずかしいものですが、なぜか「恥ずかしい自分をいったん置いておく」ことができ、「裏声で歌うのって気持ちいい!」とも思えたのです。

休日[はあえて音楽から離れることも。](#)
[朗読や雨音のASMRを聴いてリラックス](#)

今年の抱負ですか? 50代になり、キャリアも長くなりました。吸収し、自分の中に蓄えることを懸命にやる時代から、アウトプットというか、次世代にバトンを渡していく時が来たように思います。この年齢になって良いことはスルー力も高まったことです(笑)。イヤなことを抱え込まなくなったからストレスを溜めることもなく、ストレス解消に何かをすることもありません。お酒はたしなみませんが、食事はがまんせずしっかり食べます。基礎代謝が高いようで、ありがたいことに体型もほとんど変わらないんです。

休日はあえて音楽から距離を置きます。聴きはじめると、聴き込んでしまうので。リラックスのためにかけるとしたらゆったりとした朗読や、雨音などでしょうか。

ストレスを溜めないと言いましたが、実はオランダ人役はこれまでのレパートリーではないので「挑戦」になりそうです。公演を終えたときには、自分にご褒美をあげたくなるかもしれませんね。ただ、オランダ人とゼンタは魂でつながっているということが、ワーグナーの音楽を聴くと不思議と伝わってくるのです。この感覚を観客の皆様と共有できたらいいなと思っています。

さいき けんじ・愛知県出身。国立音楽大学卒業、同大学院及び二期会オペラ研修所修了。文化庁在外研修員として渡伊。新国立劇場、日生劇場等での多くの舞台の他、びわ湖ホールでは「ニーベルングの指環」全作出演。東京二期会では『後宮からの逃走』オスミン、『魔笛』ザラストロ等、幅広い役柄と豊かな声でオペラに欠かせない存在として活躍し、本年は2月『カルメン』に続く出演。二期会会員



ゼンタ役を演じる

ソプラノ 中江万柚子

2025年9月11日(木)、14日(日)出演

今年は20代最後の年になります。友達と「20代で何かやり残しているかな?」と話してみたいです。全然思い浮かばず、「しいて言えば、バンジージャンプかな」という結論で終わりました(笑)。10代は宝塚歌劇団の一員として奮闘し、20代は音大受験とオペラ歌手になるという夢を追い、充実していたのだと思います。幸運にも20代でデビューできたのだから、30代からは仕事にまい進です!

クラシック音楽好きの家族のなかで育ち、舞台を観る機会も多く、最初に観た舞台が宝塚だったことから小学校低学年で入団を夢見ていました。余談ですが、小学生のときに連れられて行ったザルツブルク音楽祭で拝見したロラン・ナウリさんは、私の去年のデビュー公演『コジ・ファン・トゥッテ』でなんと同じ舞台に。父が気づいたのが公演後だったので、ご本人とその話題はできませんでしたが、ご縁があった!と感じました。

中学校卒業と同時に入団した宝塚では長身が目にとまり男役に。「誰も寝てはならぬ」や「闘牛士の歌」を歌う機会もあり、この頃から意識してオペラを観るようになりました。ただ、男声パートを歌うわけですから、音大受験を決めたときには、女性の発声法に戻すのにしばらくかかりました。

[プリンセスに憧れたディズニーの世界。](#)
[年間パスで通い詰めた音大時代](#)

音大時代は声楽にのめりこみ大学と家の往復——とはならず、大学と浦安の往復というくらい、ディズニーリゾートに通いました。年間パスを買い、放課後になると浦安に向かい、ごはんを食べて、パレードまでに大学の課題をすませるなんていうかんじでした(笑)。幼い頃からディズニーに親しみ、「プリンセスになりたすぎる子ども」でしたから、宝塚に入らなかったのも娘役のドレスに憧れたのがきっかけです。

私は「愛を持って運・縁・恩を大切に」が信条です。ゼンタ役が巡ってきたのもきっとそのおかげ。最近、イマーシブ(没入感)な体験が流行っていますが、お客様が『さまよえるオランダ人』の世界に没入できるよう、役作りに努めたいです。ストーリーが少し映画『パイレーツ・オブ・カリビアン』に似ていると言え、ご興味を持つ方も多いのではないでしょうか?

なかえ まゆこ・東京都出身。桐朋学園大学卒業(声楽専攻首席)、同大学院修了。二期会オペラ研修所修了(特待生、川崎静子賞、最優秀賞、渡邊高之助賞)。福島育英会奨学生。これまでに「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・アンナ、「椿姫」題名役等を演じる。東京二期会では「ディーヴァ、ディーヴォ」等に出演し、昨年11月『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージでデビュー。二期会会員



「イオランタ／くるみ割り人形」を振付する アンドレイ・カイダノフスキーの コンテンポラリー

この夏に上演される『イオランタ／くるみ割り人形』で振付を担当したのが若き精鋭、A・カイダノフスキーさん。古典から同時代作品までの幅広い振付だけでなく、自身もダンサーとして活躍したカイダノフスキーさんに、この作品への思いを語っていただきます。



「ダンサーでもあったカイダノフスキーさんがなぜ振付師になったのか、またこの作品で振付を担当された経緯を教えてください。」

私の母はポリシヨイ劇場のダンサーでした。ですから、あの劇場で育ったと言っているでしょう。バレエ学校に進んだのもごく自然なことでしたが、初めの頃は育った劇場での経験と、練習で学ぶことが結びつかない感じでした。15歳になってオーストリアに移住し、コンテンポラリーダンスに出会うとその感覚も変化しました。コンテンポラリーダンスは世界を大きく広げてくれたのです。ウィーンでバレエの勉強を終えてすぐウィーン国立バレエ団に入団し、15年間ダンサーとして活動しました。ダンサーとしてのキャリアがスタートした頃、振付も始めました。そのおかげで世界各国のバレエ団と仕事をすることが恵まれたのです。

子どもの頃から、私は壮大な全幕作品が好きでした。ですから、(演出家の) ロッテの



ウィーン・フォルクスオーパーでの『イオランタ／くるみ割り人形』公演より。 © Ashley Taylor

アイデアにすぐ惹き込まれました。チャイコフスキー作品は子どもの頃から身近だったので、ロッテにチームに誘ってもらった時は、二つ返事で引き受けました。

「『イオランタ／くるみ割り人形』は、指揮者、演出家、そしてカイダノフスキーさん3者の創作となっていますが、コンセプトや創作の過程を教えてください。」

ロッテの中では、すでにチャイコフスキーの2作品を合わせるというビジョンがはっきりとありました。指揮者と私は、それぞれの分野で『イオランタ』と『くるみ割り人形』を、ロッテのビジョンに合わせて補うような解釈を行いました。最初は密接なコミュニケーションを取りつつも、それぞれの分野を分担し、最終段階に近づいた頃に集合して、ひとつの作品に仕上げていきました。

「どのような点を熟慮し、振付したのでしょうか？ クラシカルな振付を意識した点や、カイダノフスキーさんが新しく解釈したポイントをお教えください。」

振付師としての役目はいくつかあります。イオランタの感情を反映させながら、彼女が描く幻想の世界を表現し、物語を少しずつ進めていくこと。そしてシームレスにバレエとオペラを融合させることでした。そのため、早いうちに古典作品の『くるみ割り人形』を踏襲する必要はないという考えに行き着きました。代わりにまったく新しい、唯一無二な世界を作り上げようということになり、私は自由に創造力を働かせ振付をすることができました。

「振付で工夫した点や、特に観てもらいたいところはどこでしょうか？」

どのシーンもそれぞれ個性があり、ひとつを選ぶのは難しい！ どのシーンにもイオランタのさまざまな感情と経験が投影されています。この変化に富んだシーンの連続が観客を魅了し、興奮させるのだと思います。

「2025年夏、日本での公演にいらっしゃるお客様にひと言お願いします。」
とにかく楽しんでください！ それだけです。

A. カイダノフスキー振付作品集

国際ダンスフェスティバルTANZOLYMP2015振付コンクールで最優秀劇場アーティストに選ばれたほか、ダンスマガジン『タンツ』で有望アーティストとして取り上げられた
カイダノフスキーさんの振付作品を写真でご紹介します。



2019年バイエルン州立バレエ「セシル・ホテル」より。 © ziyue liu



2022年リンツ州立劇場「眠れる森の美女」より。 © Ashley Taylor



2022年ウィーン国立バレエ団「ルクス・アンブラ」より。 © Ashley Taylor



チャイコフスキー『イオランタ/くるみ割り人形』

新制作

日本語字幕付原語（ロシア語）上演
指揮：川瀬賢太郎（名古屋フィルハーモニー交響楽団音楽監督）
演出：ロッテ・デ・ベア
振付：アンドレイ・カイダノフスキー
バレエ：東京シティ・バレエ団
管弦楽：名古屋フィルハーモニー交響楽団
2025年7月26日（土）13:00 愛知県芸術劇場 大ホール
8月 2日（土）13:00 iichiko総合文化センター iichikoグランシアタ

『イオランタ/くるみ割り人形』が 愛知、大分で公演決定！

7月の東京文化会館に続き愛知、8月に大分で上演されるこの舞台、
会場となる劇場や指揮者にスポットを当てます。



1.川瀬賢太郎指揮、勅使川原三郎演出による国内共同制作オペラ『魔笛』（2017年）より。2.満員御礼だったグランドオペラ共同制作『アイダ』（2018年）より。3.直近のプロダクション、グランドオペラ共同制作『トゥーランドット』（2020年）より。4.iichiko総合文化センター。5.iichikoグランシアタ

iichiko総合文化センター

大分県大分市高砂町2-33 TEL.097-533-4000（代表）
[アクセス] (JR) 大分駅から徒歩15分
(バス) 大分空港から特急バス「エアライナー」で大分駅まで約60分

東京二期会と6回の共同制作。九州の本格的舞台芸術の殿堂——iichiko総合文化センター iichikoグランシアタ

iichiko総合文化センター大ホール「iichikoグランシアタ」（客席数1966席）は、大規模公演に対応できる舞台設備を持つ、九州屈指のホールを擁する劇場です。

開館から25年が経過し、改修工事を実施、昨年装いも新たにリニューアルオープン。あらゆるジャンルの最高の舞台芸術に対応できるホールとしてさらに上質な空間に生まれ変わりました。

東京二期会とは『オテロ』（2015年）、『さまよえるオランダ人』（2016年）、『魔笛』（2017年）、『ばらの騎』

を排した複合芸術作品の誕生を目指して、実験的な模索を続けています。

そこから約20年、この度、オペラとバレエが領域を超え、一丸となって取り組んだ『イオランタ/くるみ割り人形』が東京二期会の新作で誕生します。オペラの中にダンスシーンが出現するだけではなく、オペラ『イオランタ』とバレエ『くるみ割り人形』のふたつの作品が対等な関係で拮抗/融合した真に複合的な舞台作品です。日本を代表する歌手やダンサーらが凌ぎを削って共に創り上げるスペクタクルの誕生を今から楽しみにしています。（愛知県芸術劇場芸術監督 唐津絵理）

今夏はこのほか、バレエ公演も多数上演予定。6月7日には東京バレエ団『眠れる森の美女』、7月29日にはウクライナ国立バレエ『スペシャルセレクション2025』も予定されているので、バレエ好きもぜひ、足を運んで。



1.話題作続出のダンスオペラシリーズ、『UZME』（2005年）より。撮影/瀬戸秀美 2.劇場の紹介をいただいた芸術監督の唐津絵理さん。©Atsuko Chiba 3.愛知芸術文化センター。4.愛知県芸術劇場大ホール。©Aichi Arts Center (3・4)

愛知県芸術劇場

愛知県名古屋市東区東桜1-13-2 TEL.052-971-5511（代表）
[アクセス] (地下鉄) 東山線または名城線「栄」駅下車、徒歩3分
(オアシス21から地下連絡通路または2F連絡橋経由)
(名古屋鉄道) 瀬戸線「栄町」駅下車、徒歩2分
(オアシス21から地下連絡通路または2F連絡橋経由)

芸術監督・唐津絵理さんが語る、東海圏随一のオペラハウス——愛知県芸術劇場 大ホール

1992年、愛知県名古屋市に、オペラ/バレエ専門劇場の「愛知県芸術劇場大ホール」がオープンしました。劇場のダンスプロデューサーとして、数々のダンス公演を企画してきましたが、身体のみで表現する純粋な「ダンス」作品のみならず、身体を中心としながらも、声や言葉、音楽、衣裳、美術等との領域を超えたコラボレーションにも積極的に取り組んできました。2003年からは「オペラ」にその語源となる総合的な「作品」の意を汲み取った「ダンスオペラ」シリーズをスタート。以来、21世紀の共生社会に相応しい、ジャンル間のヒエラルキー

川瀬賢太郎

Kentaro Kawase
東京生まれ。2007年東京音楽大学作曲指揮専攻卒業。広上淳一氏等に師事。06年東京国際音楽コンクール（指揮）第2位（最高位）入賞。卓越したプログラミングと躍動感あふれる演奏で聴衆を魅了。齋藤秀雄メモリアル基金賞、出光音楽賞受賞。現在、OEKパーマネント・コンダクター、札幌正指揮者。23年4月より名古屋フィル音楽監督。

川瀬音楽監督の指揮姿
写真提供：名古屋フィルハーモニー交響楽団



これまでドイツオペラが多かったため、チャイコフスキー作品を演奏できることも今から楽しみです。素敵な舞台をお約束しますので、ぜひ両ホールにお運びください。

ち遠しいです。

また、もうひとつ嬉しいことは、この2つの公演では、私が音楽監督を務めている名古屋フィルハーモニー交響楽団と、初めて一緒にオーケストラピットに入れることです。

今回、愛知公演、大分公演で指揮するのは、2023年4月より、名古屋フィルハーモニー交響楽団の音楽監督を務める川瀬賢太郎さん。

いま、破竹の勢いで大活躍するマエストロ、川瀬さんよりメッセージが届きましたのでご紹介いたします。

これまで、東京二期会とはアンドレアス・ホモキさん演出の「こうもり」や宮本亜門さん演出の「魔笛」などで一緒に過ごさせていただきました。

「iichikoグランシアタ」では、2017年の勅使川原三郎さん演出の『魔笛』、2022年に宮本亜門さん演出の『フィガロの結婚』を指揮させていただいたことも記憶に新しく、また伺えることが待ちです。



川瀬賢太郎 ©Tomoko Hidaki

指揮は名古屋フィル6代目音楽監督、川瀬賢太郎



来シーズンは注目の指揮者が勢揃い

次世代を担うマエストロに 胸キュンが止まらない！

東京二期会の来シーズンラインナップでは、5公演中4公演で新進気鋭の若手指揮者が登場。個性と才能溢れる音楽、そしてうっとりする指揮姿で人気急上昇の4人を中心に、音楽ライターの柴田克彦さんが紹介していただきました。ぜひ、劇場で推しを見つけて！

若手指揮者の台頭から目が離せない！

文/柴田克彦

東京二期会の2025/26シーズンは、注目の指揮者が続々登場する。総合芸術たるオペラといえど、音楽全体を形作るのは指揮者に他ならない。ここでその顔ぶれをご紹介します。

常に清新な音楽を生み出す実力者
上岡敏之

9月の『さまよえるオランダ人』は上岡敏之。これは23年のモーツァルト『レクイエム』のドラマティックな名演の記憶も新しい「上岡敏之×東京二期会プロジェクト」の第2弾でもある。今回は、ヴィース

バーデン、ザールランド、ヴッパータール等の名門劇場の音楽監督を歴任した本場の経験豊富な上岡が、得意のワーグナーオペラを日本ですべて指揮する点が大きな話題。既成概念を排した清新な音楽作りが身上の上岡による、かつてないワーグナー像は必見・必聴だ。細やかな表現で機微をもたらす

E・グランディ

11月の『こうもり』では、1952年の『グランドオペラ共同制作』の『カルメン』で精緻な演奏を展開したエリアス・グランディが、東京

でのオペラデビューを果たす。25年4月から札幌の首席指揮者に就任する彼は、ハイデルベルク劇場の音楽監督を長年務める他、世界の著名な劇場でも活躍中。ドイツ人と日本人の両親をもつだけに、歌はドイツ語、セリフは日本語という本上演にも相応しく、隅々まで機微に富んだ舞台が期待される。

複雑な大作を明快・鮮烈に伝える
M・パスカル

12月の『ファウストの劫罰』は『東京二期会コンチエルト・シリーズ』としての上演。19年「金

閣寺』で衝撃の東京二期会デビュー後、『サムソンとデリラ』『ルル』を指揮した、現ヘルシンボリ響の首席指揮者マキシム・パスカルが登場する。7月の『イオランタ』くるみ割り人形』に続く今年2度目となる出演も信頼の証。また21年の『ルル』では、複雑な作品を明快に構築しながら鮮烈な音楽を生み出し、辣腕ぶりを印象付けた。「ファウストの劫罰」は、内容的にセミ・ステージ形式に相応しい作品。コンサートでも相性の良さを見せている読響と共に、得意のフランス音楽で魅了する。

熱気と躍動感の
創造主
A・バッティストーニ

26年2月の『カヴァレリア・ル

スティカーナ』&『道化師』は、東京フィルの首席指揮者アンドレア・バッティストーニの指揮。強烈な印象を与えた12年の「ナブッコ」以降、東京二期会及び東京フィルにおける様々な公演で成功を重ね、ミラノ・スカラ座をはじめとする世界の著名劇場で活躍する等、若手の中でも屈指の実績を誇る。熱気とカンタービレが横溢したその音楽は、むしろイタリアオペラで最大限の魅力を発揮。手兵とのコンビで臨む今回も無類の高揚感を与えてくれるに違いない。

欧米で注目を集める
稀有の天才
O・ヨツケル

4月の『ルル』では、1995年ドイツ生まれのオスカール・ヨツ

ケルが日本デビューを果たす。彼は、23年ザルツブルク復活祭音楽祭でカラヤンアワードを受賞し、以後著名劇場やオーケストラに客演を重ねる、欧米で話題の天才芸術家。作曲家としても評価が高く、しかも日本通で、谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』をオペラ化し、ザルツブルクで上演されてもいる。この才人が俊烈な『ルル』をいかに表現するか？ 新鮮な衝撃の予感がひしひしと漂う。

グランディ以下の4名は30〜40代の俊英ばかり。彼らが生み出す鮮烈な音楽、耳新たなオペラ像、ひいては近未来の巨匠の先取り等々、楽しみは尽きない。若い才能が描く名作オペラの数々にぜひ足を運びたい。

〈マキシム・パスカル指揮〉
チャイコフスキー
『イオランタ/くるみ割り人形』
(新制作)

日本語字幕付原語(ロシア語)上演
管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団
東京文化会館 大ホール
2025年7月18日(金) 18:00、19日(土) 14:00
20日(日) 14:00、21日(月・祝) 14:00

ベルリオーズ『ファウストの劫罰』
(セミ・ステージ形式)

日本語字幕付原語(フランス語)上演
管弦楽:読売日本交響楽団
東京芸術劇場 コンサートホール
2025年12月13日(土) 14:00、14日(日) 14:00

〈エリアス・グランディ指揮〉
J.シュトラウス二世『こうもり』

日本語字幕付原語(ドイツ語)歌唱、日本語台詞上演
管弦楽:新日本フィルハーモニー交響楽団
日生劇場
2025年11月27日(木) 18:00、28日(金) 14:00
29日(土) 14:00、30日(日) 14:00

〈アンドレア・バッティストーニ指揮〉
マスカーニ
『カヴァレリア・ルスティカーナ』
レオンカヴァッロ『道化師』(新制作)

日本語字幕付原語(イタリア語)上演
管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団
東京文化会館 大ホール
2026年2月12日(木) 18:00、13日(金) 14:00
14日(土) 14:00、15日(日) 14:00

〈オスカール・ヨツケル指揮〉
ベルク『ルル』

日本語字幕付原語(ドイツ語)上演
管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団
カルッツかわさき 2026年4月11日(土) 14:00
新国立劇場オペラパレス 4月17日(金) 18:00
18日(土) 14:00、19日(日) 14:00

柴田克彦 Katsuhiko Shibata

音楽マネージメント勤務を経て、フリーの音楽ライター・評論家&編集者となる。雑誌、プログラム、Web、CDブックレットへの、取材・紹介記事や曲目解説等の寄稿、プログラム等の編集、講演や講座など、幅広く活動中。著書に『山本直純と小澤征爾』(朝日新書)、『吹奏楽編曲されているクラシック名曲集』(音楽之友社)。

【期間限定! 2025/26シーズン オペラ・セット券販売中!】

ここで紹介した指揮者による5演目のお得なセット券を3月15日まで販売中。詳しくは二期会チケットセンター、またはHPへ!

Oscar
Jockel
オスカール・ヨツケル

Andrea
Battistoni
アンドレア・バッティストーニ

Maxime
Pascal
マキシム・パスカル

Elias
Grandy
エリアス・グランディ

チケットご予約・お問合せ 二期会チケットセンター お電話でのチケットお申込 03-3796-1831 平日/10:00~18:00 土/10:00~15:00 日祝休



卓越した解釈で魅了する上岡敏之と、
映画・演劇を超えて活躍する深作健太が
生み出す究極のワーグナー！

Tokyo Opera Days 2025
上岡敏之×東京二期会プロジェクトII
東京二期会オペラ劇場

**ワールド
プレミア**

ワーグナー 『さまよえるオランダ人』

日本語及び英語字幕付原語(ドイツ語)上演

指揮：上岡敏之 演出：深作健太

東京文化会館 大ホール
2025年9月11日(木) 18:00、13日(土) 14:00
14日(日) 14:00、15日(月・祝) 14:00

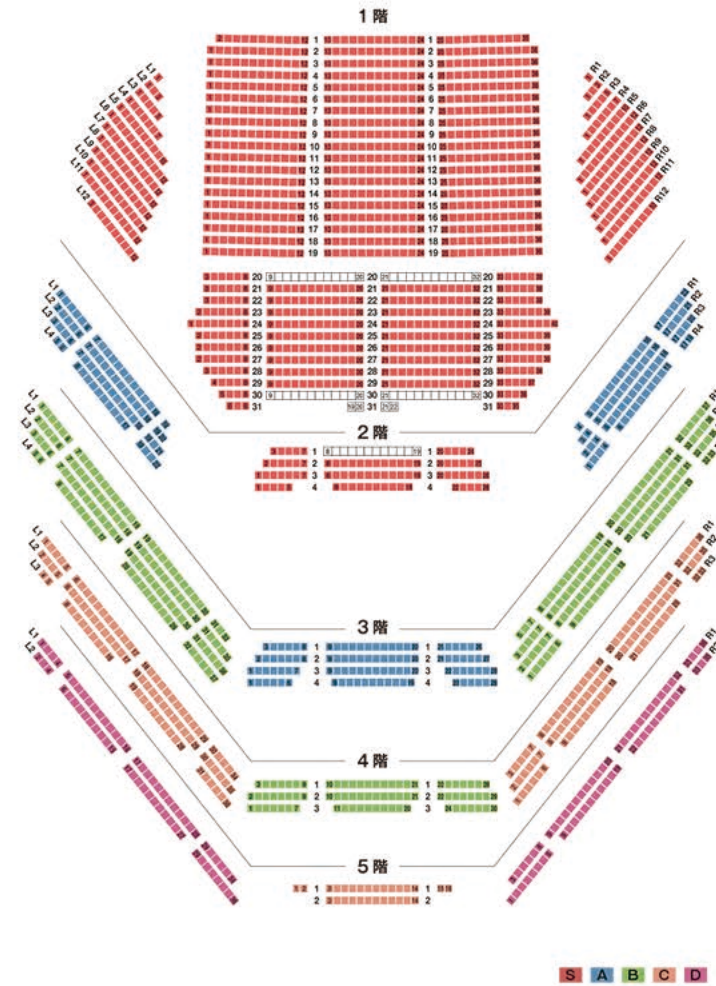
装置：久保田悠人 衣裳：西原梨恵 照明：喜多村貴
合唱指揮：三澤洋史 舞台監督：八木清市
公演監督：大野徹也 公演監督補：佐々木典子

	11日(木)・14日(日)	13日(土)・15日(月・祝)
ダーラント	山下浩司	志村文彦
ゼンタ	中江万柚子	鈴木麻里子
エリック	城宏憲	樋口達哉
マリー	花房英里子	川合ひとみ
舵手	濱松孝行	与儀巧
オランダ人	河野鉄平	斉木健詞

合唱：二期会合唱団
管弦楽：読売日本交響楽団

チケット料金(全席指定・税込)
S22,000円 A18,000円 B14,000円 C10,000円 D6,000円
学生3,000円 U39席10,000円*

9/11(木)はプレミア・スペシャル料金=S~B席1,000円引き



発売日：二期会オペラ愛好会先行=3月22日(土)
一般発売=4月19日(土)

* U39席は二期会チケットセンターでの取り扱いがございません。
チケットスペース他、プレイガイドでお求めください。

ウィーンから届く最高の夢物語。
愛知・大分公演決定！

ウィーン・フォルクスオーパー、ウィーン国立バレエ団との共同制作
東京二期会オペラ

チャイコフスキー 『イオランタ／くるみ割り人形』

日本語字幕付原語(ロシア語)上演

指揮：川瀬賢太郎(名古屋フィルハーモニー交響楽団音楽監督)
演出：ロッテ・デ・ベア 振付：アンドレイ・カイダノフスキー

2025年7月26日(土) 13:00 愛知県芸術劇場 大ホール
2025年8月2日(土) 13:00 iichiko 総合文化センター iichiko グランシアタ

チケット料金(全席指定・税込)
愛知公演：S15,000円 A12,000円 B8,000円 C5,000円 D3,000円 U39席(S、A席相当) 8,000円 学生2,000円
大分公演：GS14,000円 S12,000円 A11,000円 B8,000円 C6,000円 D4,000円 U25割A~D席半額

発売日：愛知公演=3月14日(金) 大分公演=3月27日(木)

イオランタ	梶田真未
ルネ	狩野賢一
ヴォデモン伯爵	伊藤達人
ロベルト	大川博
エブンはキア	小林啓倫
アルメリック	大槻孝志
ベルトラン	水島正樹
マルタ	小野綾香
ブリギッタ	清野友香莉
ラウラ	郷家暁子

バレエ：東京シティ・バレエ団
管弦楽：名古屋フィルハーモニー交響楽団

オペラとバレエ両ジャンルのエキスパート、バスカルが振る！
この夏、最高の幸福感に満たされる舞台をあなたに。

ウィーン・フォルクスオーパー、ウィーン国立バレエ団との共同制作
東京二期会オペラ劇場

チャイコフスキー

『イオランタ／くるみ割り人形』

新制作

日本語字幕付原語(ロシア語)上演

指揮：マキシム・バスカル 演出：ロッテ・デ・ベア
振付：アンドレイ・カイダノフスキー

東京文化会館 大ホール
2025年7月 18日(金) 18:00、19日(土) 14:00
20日(日) 14:00、21日(月・祝) 14:00

主な配役	18日(金)・20日(日)	19日(土)・21日(月・祝)
イオランタ	梶田真未	川越未晴
ルネ	狩野賢一	北川辰彦
ヴォデモン伯爵	伊藤達人	岸浪愛学

バレエ：東京シティ・バレエ団
管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

チケット料金(全席指定・税込)
S22,000円 A18,000円 B14,000円 C10,000円 D6,000円
学生2,000円 U39席10,000円*

7/18(金)はプレミア・スペシャル料金=S~B席1,000円引き

* U39席は二期会チケットセンターでの取り扱いがございません。
チケットスペース他、プレイガイドでお求めください。

二期会サロンコンサート vol.211~ウィーンに乾杯~

6月26日(木) 19:00 カワイ表参道コンサートサロンパウゼ 全席自由3,500(3,300)円
佐々木典子 大野徹也 ピアノ：浜川潮

第二十二回 二期会日本歌曲研究会演奏会

6月7日(土) 13:00 旧東京音楽学校演奏堂 全席自由4,000円
阿部麻子 木内弘子 黒川京子 品田昭子 柴田百代 武かほる 鳥養和歌子 中村良枝 福成紀美子 毛木香保里 草西富貴子 馬場眞二
ピアノ：高木由雅 森裕子 監修：中村健 瀬山詠子 構成・制作：前澤悦子 馬場眞二 前中榮子 主催：二期会日本歌曲研究会

VERDI 『La Traviata』 ~ Message from Violetta ~ <<柴田智子・演出 改訂版 再演>>

6月13日(金) 18:30 豊洲シビックセンターホール 自由席 一般8,500円(7,650円) 学生4,000円
*プレミアムシート(指定席・プレゼント付) 11,000円は(株)T.S.P.I.(TEL:03-3723-1723)のみの取扱い
柴田智子 金山京介 高田智士 下司愉宇起 ピアノ：追川礼章 主催：企画制作・プロデュース(株)T.S.P.I. 公演監督：柴田智子

東京二期会へのご支援をお願いいたします

私どもでは昨年10月に第2回 Tokyo Opera Days を開催し、上野での様々なイベントを多くの方にお楽しみいただきました。実施にあたり、クラウドファンディング等、様々なご支援を頂戴しましたことを深く感謝申し上げます。本年9月には第3回を予定しております。野外での無料イベント等、オペラの魅力を伝えるための大事な取組ではございますが、莫大な支出が伴うものでもあり、変わらず皆様からのご支援をお願いする次第です。

先日発表いたしましたラインナップに加え、今後も世界の主要歌劇場との共同制作、第一線で活躍する指揮者、演出家の招聘を予定しておりますが、このような充実したオペラ鑑賞機会の継続的な提供も、私どもの大切な使命として捉えております。ここに改めて皆様の篤いご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

公益財団法人東京二期会

東京二期会への寄付は、税額控除の優遇措置が受けられます

詳細は、東京二期会ホームページ(<https://nikikai.jp>)または
右記のQRコードよりアクセスをお願いいたします(クレジットカード決済も24時間承っております)。

お電話での受付
ならびにお問合せ先 TEL 03-3796-1831 donation@nikikai.net 公益財団法人東京二期会 マーケティング部



チケットご予約・お問合せ 二期会チケットセンター

お電話でのチケットお申込 **03-3796-1831** 平日/10:00~18:00 土/10:00~15:00 日祝休

WEBからのチケットお申込 <https://nikikai.jp> 二期会チケット

24時間受付/システム利用料・発券手数料無料
二期会オペラ愛好会のお客様は、ログインされますとWEBからのお申込みでも特別価格でお買い求めいただけます



二期会アーティストのオペラ、コンサート、TV出演情報はこちら! →

株式会社二期会21 アーティスト検索 <http://www.nikikai21.net/artist/>



特別なひとときを一緒に



～72年ぶりの御開帳～

名古屋淡交会

令和7年 3月22日(土)

11:00 開演 (10:30 開場)
会場：名古屋能シアター久田館

主催：名古屋淡交会 共催：認定特定非営利活動法人 名古屋能楽振興協会

豊川稲荷御開帳 特別記念公演

令和7年 4月12日(土)

14:00 開演 (12:30 開場)
会場：豊川稲荷法堂内

主催：認定特定非営利活動法人 名古屋能楽振興協会

■チケット料金

限定80名:10,000円
(昼食付き)

※数に限りがございますので先着順とさせていただきます。

予約フォーム

詳細はこちら

能 久田事務所

■チケット料金

自由席：6,000円
優先ブース(限定100席)
御祈祷セット：10,000円

※送迎マイクロバス(名古屋能シアター久田館～豊川稲荷)をご利用の方は、別途3,000円

予約フォーム

詳細はこちら

能 久田事務所



お問い合わせ
淡交会事務局 TEL052-265-5158 FAX052-446-6025
※都合により出演者の変更については、予めご了承ください。撮影や、録音はお控えください。